

令和7年度

川内南小学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- 分かりやすい発問により、児童の思考を深める授業の実践
- 認め合い、話し合い、学び合う授業の実践

校長

菊本 佳孝

学力向上推進員

眞井 裕生

【各校の取組状況の把握について】

研究授業による授業研究と授業研究会における報告・情報交換

◎次の（１）～（３）をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

（１）知識・技能の習得

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○基礎的・基本的な知識・技能が身に付き、与えられた課題にも真面目に取り組める児童が多い。 ●活用力が弱く文章中に漢字が使えなかったり、使い方が変わると書けなかったりする児童がいる。学習の習熟度に開きがあり、複雑な計算について途中で諦めてしまう児童がいる。家庭学習等で反復練習の必要がある。	・学習の過程を通して習得した知識が既習の知識と関連付けられ、他の学習の場面で活用することができる。 ・課題に根気強く取り組み、基礎的・基本的な知識・技能を身に付けることができる。	・日記指導の充実と家庭学習の徹底を図る。 ・授業では、めあての確認、ふり返り、まとめの充実を図る。 ・朝の活動時間に漢字や計算等、基礎的・基本的な内容の学習を行う。 ・個に応じた（特に進んだ児童）指導の工夫をする。 ・タブレットを活用した学習の工夫をする。			

（２）思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○目標が明確で、見通しの立つ課題をやり遂げようと努力する。 ●既習事項や経験をもとに考えたり、考えたことを言葉で説明したりする力に課題がある。	・課題解決への見通しを持ち、根拠をもとにして、自分の考えを分かりやすく話したり、・書いたりすることができる。 ・自分の考えを持ち、友達の考えを聞くことができる。	・児童の実態に応じた教材開発を行う。 ・特別活動の時間を中心に話し合い活動の充実を図る。 ・各教科、ペアワーク、グループワークを取り入れるなど、指導方法を工夫する。 ・授業の中で、自分の考えをまとめて書く時間を意図的に設ける。			

（３）主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○落ち着いて学習に取り組む、学習や生活のきまりを守って学校生活を送ることができる。 ●家庭での読書時間が十分とれていない。自分から課題を見つけて取り組むことが苦手で、進んで学習する態度の定着に課題がある。	・学ぶ意欲を持ち、自ら課題を見つけて、自主的に学習に取り組む。 ・読書に親しむことができる。	・授業の中で児童が疑問を感じ、その疑問が解消され、理解や発見の喜びに変わるような授業を行う。 ・週に1回図書室を利用し、読書に親しむ機会と時間の確保する。 ・振り返りの視点を児童に示し、記述させる。 ・各学年・教科・指導内容の特質に応じたノートの指導の充実を図る。			